

# 小児看護学におけるプレパレーション教育の実際

竹 村 眞 理

## The preparation education in the infant nursing science, actually

TAKEMURA Mari

### 抄 録

小児看護学で重要視されているプレパレーションの概念の教育研究について、20年間の振り返りから陥りやすい問題点を明らかにし、今後どのように展開していくかについて、考察した。

1994年子どもの権利条約が採択され、同意能力がみとめられない人についても、自分の意見を表明できる場合には、本人の意思を尊重することが重視され、説明をすることが求められるようになった。小児看護学では、この説明をプレパレーションという概念でとらえ、看護学生がプレパレーションを理解できるように様々な工夫が行われてきた。プレパレーションの先行研究を概観すると、グッズの作成や説明の仕方にとどまっている傾向にある。

看護学生のプレパレーションの概念と方法の理解を促進するためには臨床指導教員が、臨地実習において看護学生が見学あるいは実施したプレパレーションの場면을教材化し、臨床実習カンファレンスに取り上げることが必要ではないかと考えられる。

キーワード：小児看護学教育

プレパレーション

## はじめに

1994年子どもの権利条約が採択され、同意能力がみとめられない人についても、自分の意見を表明できる場合には、本人の意見を尊重することが重視されるようになった。

特に小児看護においては、家族の代諾で治療処置をしがちであったが、病児の人権を尊重することから、病児にもその成長発達に応じた方法で説明が行われるようになった。小児看護の中のケアの概念の一つとして、この小児にむけて説明し、インフォームドコンセント、あるいはインフォームドアセントを得る一連の説明行動をその趣旨・目的を含みプレパレーションと称している。

同時に看護教育においても、小児看護学では、看護学生がプレパレーションを理解できるように様々な工夫が行われ学会での発表が行われてきた。しかしプレパレーションの先行研究を概観すると、グッズの作成や説明の仕方にとどまっている傾向にあると思われる。

そこで、プレパレーションの教育に関係する先行文献を検討し、小児看護学で講義・演習したことをどのように臨床実習につなげるかについて考察する。

## 方 法

1. 医学中央雑誌で過去10年間のプレパレーションについての研究を「看護教育」「プレパレーション」をキーワードの検索した53件の文献から、看護学生の学びについて研究されている文献38件を取り出す
2. 38件を、教育内容としてプレパレーショングッズ作成・発表の報告22、看護学生のプレパレーションに対する認識調査5、看護学生の臨地実習での実践報告11に分類
3. 教育内容としてプレパレーショングッズ作成・発表の文献および、看護学生の臨地実習での実践報告の2群に分け、文献の内容を整理した。

## 結 果

教育内容としてのプレパレーションと、実践報告について次の様に整理した。

### 1. 教育内容としてプレパレーショングッズ作成・発表の文献について

先行研究を読む限りにおいて、教育内容としてプレパレーショングッズ作成・発表の文献は、グッズそのものに対する評価として、学生の想像力・小児を対象とした実習への期待感の表れと関心および色や形の配慮等が挙げられていた。その観点は、どの文献にもあり概ね「不安の軽減」「心の準備」「理解を得る」の3点であった。

プレパレーショングッズの作成を通して、学生の主体性を促すことから、さらに対象である小児が受ける治療・検査の苦痛を追体験する機会であり、理解を深めるとの評価がなされているものもあった。

また、作成されたプレパレーショングッズや、事例を想定した発表から、教員が学生

個々の小児の理解度の評価としていた。発表会を開催したことの文献では、発表をするまでの、学生間のグループダイナミックスを評価していた。

## 2. 看護学生の臨地実習での実践報告について

臨地実習で学生が学んだことについて「発達段階を留意する」「個別性に配慮する」「理解を明確にする」「達成感につなげる」「子どもとの関わり総ての過程がプレパレーションである」「自己表出の一つである」等が挙げられている。

学生は、バイタルサイン測定場面で説明したことによって、小児が測定に協力的態度をとったことから、「子どものやる気を引き出す」プレパレーションの効果と判定していた。

## 考 察

教育内容としてプレパレーショングッズ作成・発表の文献および、看護学生の臨地実習での実践報告から、学生にプレパレーションの概念の理解を促進するための臨地実習指導の方向性として次の2点について検討した。

### 1. 作成したプレパレーショングッズを臨床実習で活用する。

学生が、学内で作成したプレパレーショングッズが作成・発表のみで終了しないために、臨地実習で活用するように方向づける。学生が主体的に、取り組んで作成したグッズは必ずしも、小児看護学実習において受け持ちとなる小児に適したものではない可能性がある。そのため事前に、実習担当教員は、臨床指導者と学生が実習の事前学習として学内で学修している内容を伝え、その成果物として作成したグッズを活用できる場面を臨床指導者・学生と見つけられるように援助する必要があると考えられる。

また、ある学生が作成したグッズが必ずしも対象の小児の個別性や受ける治療処置に適しているとは限らないが、同じクラスで作成された他の学生のグッズを共有財産として活用することを学生間で事前に話し合っておくのも活用を推進する手段となり得る。

### 2. 看護学生の臨地実習での実践をカンファレンスで取り上げる

臨地実習で学生が学んだことについて「発達段階を留意する」「個別性に配慮する」「理解を明確にする」「達成感につなげる」「子どもとの関わり総ての過程がプレパレーションである」「自己表出の一つである」等が挙げられていることが結果として得られた。

これらの、具体例そのものが、プレパレーションの実施により「子どものやる気を引き出し」「気持ちを開示」することの意味を学生にフィードバックする機会であるため、カンファレンスで話題にすることで、さらに学生の理解を促すことになるのではないかと考える。

学生は、どちらかというと「バイタルサイン測定場面で説明したことによって、小児

が測定に協力的態度をとったこと」のみからプレパレーションの効果を判定するという点で評価しがちである。実際に臨床で小児と対応していると、病気・入院体験によって危機的状況に陥っても、少ない人生体験を総動員して、果敢に取り組める存在であると思える。小児が、プレパレーションを受けること自体を、一つの人生体験とふまえて、目の前のことに取り組む力にしていると感じる。また、小児の看護師は、その体験が、次に来る危機的状況に対応する自分自身の「自信」となるように支援する必要がある、子どもの日々の反応をその瞬間だけではなく経時的に把握する必要がある。

プレパレーションについての文献は、治療処置・看護の面から取り上げたものがほとんどであったが、スマイルタッチというディストラクション（気をそらせる）を図った試みの報告、プレパレーション及び小児関係の医療職者が、治療処置に係る場合に、使用する言葉が乳幼児期の言語発達促進につながる「オノマトペ」といわれる擬音語を頻繁に使用している実際を報告しているものがあつた。乳幼児期にあつて言語理解が未発達な段階又は、同意能力が発達していない段階であっても、子どもの将来に影響する場面がある。これらをふまえてさらにプレパレーションの実施の必要性を学生と共に認識し、臨地実習で学びあえるカンファレンス運営を目指したい。

## 引用参考文献

- 1) 生田まちよ, 宮里邦子他: 小児看護におけるシュミレーション方式プレパレーション演習の実際と看護学生の学び 熊本大学医学部保健学科紀要9号 2013
- 2) 荒木美佐子, 加藤有美子他: 小児看護学実習における看護学生のプレパレーションの取り組み 国立病院看護研究会学術集会収録集 10回 2012
- 3) 栗田佳江, 杉原喜代美他: 看護基礎教育におけるプレパレーション教育の必要性 看護学生のプレパレーションに対する認識調査より 足利短期大学看護学科 32巻1号 2012
- 4) 斉藤史恵, 斉藤美紀子: 看護学生のプレパレーションのとらえと課題 小児看護学演習における学生の学び 日本看護研究学会雑誌35巻3号 2012
- 5) 石館美弥子: 小児看護学技術演習の検討 紙芝居づくりの試みとプレパレーション 日本看護化学学会学術集会講演集30回 2010
- 6) 石館美弥子, 大島美智代: プレパレーションにおける演習の効果 看護学生が紙芝居の演じ手と聴き手を体験して 湘南短期大学紀要21号 2010
- 7) 石館美弥子: 幼児へのプレパレーションに含まれるオノマトペの特徴 横浜創英短期大学紀要8号 2012
- 8) 蛭名美智子, 林裕子: 医療を受ける子どもへのかかわり方: 2004 厚生労働省科学研究費補助金 子ども家庭総合研究事業
- 9) 田中恭子編著: プレパレーションガイドブック 日総研出版 2006

## Abstract

The aim of this study was to clarify trends and future issues in preparation for pediatric nursing based on a review of literature over the past 10 years. In 1994, the Convention of the Rights of the Child was ratified in Japan. Since then, respect for the opinion of the children in question including those incapable of giving consent has been emphasized in pediatric medical care. In the study of pediatric nursing, the above is considered to fall under the concept of “preparation.” As such, relevant initiatives have been put in place to educate students regarding this concept and various measures have been taken to promote understanding. Previous studies on “preparation” can be divided into three categories: school lectures / training, student clinical training experiences and attitude surveys of nursing students. Based on these results, it was pointed out that consistent educational development in the fields of school lectures / training and student clinical training to promote understanding of the concept of “preparation” and methods of implementing “preparation” in nursing students.

Key words : Pediatric nursing education

Preparation